場所　〒502-0812 岐阜市八代3丁目27-8「ふれあいスペース」

わいわい、がやがや、みんなで哲学

哲学カフェ de ぎふ

千秋（せんしゅう）まちかど文庫　通信

第169号
2022年8月

運営委員会発行（記録:安藤彰浩、編集:中川健史）（主宰:吉田千秋　090-7917-9602　yoshida0@sepia.ocn.ne.jp

第169回哲学カフェ例会（2022,7,14）記録

≪議院選挙を終えて・・明日はどうなる？≫

「選挙の結果は自公政権安泰、加えて改憲勢力3分の2以上となりました。軍事力を強化し、憲法を変えて私たちの明日が明るくなるとは思えません。投票者が半数ちょっとという状況も変え、何とかして希望が見えてくるようにしたいものです。」

問題提起　吉田 千秋

・今日は、先日行われた参議院選挙の結果について考えてみようと思います。

　まず最初に、選挙結果について。(1)自民党が改選議席の単独過半数を獲得。(2)自公政権は安泰。(3)改憲勢力（自公プラス維新及び国民民主党）が3分の2以上を獲得。現有議席は衆議院、参議院ともに3分の2以上となる。(4)野党協力は不発に終わり、野党一本化が実現した選挙区は2区のみで、一人区の結果は4勝28敗だった。野党第一党の立憲民主党は今回議席を6減らした。

・この結果について、検討したい一つは、自民党はなぜ大勝することができたかという点です。直前に安倍元首相が選挙の応援演説の際に狙撃され亡くなるという事件がありました。自民党に同情票が集まって、自民の議席を増やした効果は否定できません。結果だけ見れば、国民は現状維持を望んだと言えるかもしれません。だが何と言って、多くの野党が政権に対する対決姿勢をはっきり示せなかったことが大きいと思われます。

・そこで問題にしなくてはならないのは、重要な政策課題についての議論が十分に行われたかという点です。答えは否定的にならざるを得ません。岸田首相が掲げた「新しい資本主義」とはどういうもので、アベノミクスとの相違点は全く議論されませんでした。また、ウクライナ危機を背景に軍事費の強化が多くの政党で主張されたが、平和安全保障政策に関する抜本的な議論は行われませんでした。女性や若者問題や、医療、社会保障、年金といった長期的な課題に関する提案もなされないままでした。政策議論が低調なことに関して言えば、政策論議を喚起するのではなく、当落予想の報道に終始するメディアの役割にも大きな問題があると思われます。

・さらに、今回の選挙を通して、選挙の意義や民主主義ついて考える必要があると思われます。選挙は国政の方針を決める議員を選ぶから、もちろん民主主義の柱の一つです。だが、選挙だけ

レンゲ畑のスズメ

が民主主義なら「お任せ民主主義」になります。以前から、「国民は主権者でありながら、選挙で投票する時だけ民主主義に加わる」と揶揄されています。とくに、投票率は50％余りが続いている日本ではかなり問題で、民主主義が劣化している証ではないでしょうか。

•選挙戦の終盤、安倍元首相が応援演説の際、狙撃され亡くなるという事件がありました。政治家や報道関係は党派の違いを越えて、「民主主義そのものに対する攻撃で、決して許されない」としました。ただし、安倍氏は異論を排除し、不都合な事実は隠し、まともな論争にまったく不熱心で、とても民主主義の発展に貢献したとは言えません。むしろ、民主主義の深刻な衰退・劣化をもたらした元凶ともいえましょう。

•今後選挙の無い3年の間、政権は安泰で「黄金の3年間」と評する人もいます。改憲勢力が衆参両院で3分の2の多数を得たことを受けて、岸田首相は憲法改正を本格的に進めようとしています。日本の民主主義にとって試練の年間になるでしょう。国民がさまざまな課題についてしっかりと議論し、あらたに社会運動を展開して行く必要があるように思われます。

＜意見交流＞

＊ロシアが不法にウクライナに軍事侵攻した問題で、防衛力強化を唱えて軍拡を論ずる者たちが、北朝鮮や中国やロシアの脅威から日本を守ると言って勢いづいている。ウクライナの危機や台湾問題の背後にあるアメリカ帝国主義の思惑を理解しなければならない。「台湾有事」がまことしやかに叫ばれているが、一方的にアメリカの作ったシナリオに乗っからない様に注意する必要がある。

＊国家というものは、経済が低調で、国の力が衰えると、外の危機に注意を向けて、軍事力拡大を声高に訴える傾向がある。ウクライナ問題は都合の好い口実で、成長産業で出遅れてしまった日本は、軍事産業を育成して景気浮揚の機会にしたいという政府の思惑がある。

＊今回の選挙の結果は、自分たちの利益を危うくしたくない人たちの立場が現れたものである。労働者が野党を支持したのは過去のことに過ぎない。連合は比較的に恵まれた労働者たちの集まりである。組織の利益を守ることが最優先され、大半は現状維持を支持する。

＊日本人は計算高い所があり、勝ち組に付く傾向がある。選挙も勝つ方に味方して、分け前に与りたいと考える。政治家は様々な方面で影響力を持つ。支援した候補が当選すれば、その政治家の口利きを期待することができる。

＊近年、ソーシャルメディアの普及で、個人が意見を表明することが可能となった。多くの者は意見の違う者に対して容易に否定的な感情を持つ傾向がある。安倍氏の死は、異論を唱える者を敵として憎む風潮が生み出したものではないか。

＊選挙に行かない人が理解できない。選挙はどうなっても構わないというのは、政治に対する責任を放棄することである。自分の人生を否定しているようなものではないか。行政も皆が

もっと選挙に参加しやすい環境を作ることが必要である。

＊どうして選挙に行かない人がいるのだろう。自分の生活をよくしたいと思わない人はいないはずだ。選挙に行けば自分にとって好ましい政策を掲げる候補ないし政党を選ぶことが出来る。よく考えて行動していないってことか。

＊選挙結果は当然の結果である。社会の現実を反映していて、全然、驚きはない。年金生活者は生活を守るために、少なくとも現在の年金給付の水準を維持して欲しいと考えている。だから、政府には現在の大幅な金融緩和政策を維持して貰わなければ困る。赤字国債の付けを払うのは若者たちであるが、彼らは数の上で少数派で、しかも割合的に選挙に行かない者が多い。

＊NHKを潰すことを目標に掲げるN党や右派的主張を掲げる参政党は、過去に何の実績も無いし正体も定かでないにもかかわらず、今回、わずか一議席であるが、なぜ議席を獲得することができたのか。反既成政治の姿勢が現状に漠然と不満を持つ若者にアピールしたらしい。

＊私個人は自分の生活にそれなりに満足している。私の周りの人たちも大体同じ様なことが当てはまる。困っている人の姿が見えない。取り残された人たちのことを知らないから、会社勤めの人たちはほとんど現状を肯定する。

＊政治を知らなくても生活に困らない。多くの人は、戦場で何が起きるのか具体的にイメージできない。しかし、彼らは漠然と、ウクライナの様に性質の悪い隣国から侵略されたら大変だから、防衛力の強化は必要だと思う。軍拡を訴える右派の勢力は分かりやすいし支持される。

＊過激な主張を掲げ注目を集め一議席でも獲得すれば、国から政党助成金を受け取ることが出来る。N党は明らかに助成金目当てに全国の選挙区に沢山の候補者を立てた。

＊分断が民主主義の基盤を壊している。高齢者と若者、正規労働者と非正規労働者、そして男と女の間で、格差が拡大し、対立が激しくなれば、過激な主張の勢力が台頭する。

＊自民党を支えている新しい一群は、ちゃんと働けば大半は困らずに生きていける正規労働者である。同じ様に普通に働いても、食っていけない人たち、人並みに生活できない正規労働者が増えている。問題はこういう人たちはほとんど選挙に行かない、行けない人たちである。

＊野党の立憲民主党や共産党の主張が生活弱者にアピールしていない。恵まれない人たちは自民党に批判的な立場を取るが、立民や共産

写真提供　箕浦秀樹さん（岐阜大学名誉教授）
昆虫、鳥の写真は、友人の箕浦秀樹さん（岐阜大学名誉教授）に提供していただきました。野鳥などの写真展もされた人で、今回も何枚か送信してくれましたので順次ご紹介します。

ショウジョウトンボ

の様な野党を自分たちの代弁者と見なしていないのではないか。

＊議席を獲得した新興の小政党はどれも右派的な傾向の強いグループであるが、山本太郎率いる令和だけは違っている。党首のスタンドプレーが目立つが、主張は至極真っ当である。だが、山本太郎のための個人政党で、彼がいなくなれば終わる政党に過ぎない。

＊（ZOOM参加）　選挙のときだけ民主主義の国になるというのはおかしい。マスコミは安倍元首相の殺害を「民主主義に対する攻撃」と呼んだ。犯人の動機は言論を封じるというものと全く違うものだった。適切な表現なのだろうか。

＊（ZOOM参加）　岸田首相は安倍氏の葬儀を国葬として行うことを発表した。国葬として行うということは税金を使って葬儀を行うってことではないか。疑問を感じる。

＊安倍氏殺害の今回の事件で、改めて統一教会が日本の社会で大きな影響力を持っていることに気付かされた。主に自民党の政治家と繋がっている。統一教会は政治家に献金を行って、見返りにもらう推薦の言葉を自分たちの宣伝に使っていた。

＊安倍氏への同情票は、主に維新の会から自民党に流れた。自民党圧勝という形勢を大きく変えるものではなかった。実際その為に維新の会は事前の予測程議席を大きく増やさなかった。

＊政治教育の必要を感じる。有権者の約半分が棄権している。選挙に行かない、棄権するということは自分の権利を捨てるってことではないか。長い間、政治教育を怠ってきたことの付けが回ってきた。

＊私たちは個人の権利として保証された自由を持っている。そこには選挙に行かない自由も含まれる。一人ひとり考えは違うかもしれないが、誰もがどうしても守りたいと思うものを持っているだろう。共通の生活基盤を持っていて利害を共有しているはずである。そういう共通点を見出して、一緒に活動することが政治の出発点である。

＊候補者の人柄を知って選びたいと思うが、候補者がどういう人なのか知る機会が無い。つい先日、岐阜選挙区の元参議院議員が現役の議員に与えられるJRのフリーパスを不正使用して逮捕される事件があった。何て情けないことをするのか。政治家が不祥事を起こした時、その政治家に投票した人たちはどう思うだろうか。

＜意見交流の最後に＞　吉田千秋

・今回の選挙でも示された投票率の低さの要因はいくつかあります。日本では選挙中の個別訪問は認められておらず、候補者個人はもちろん選挙戦の運動員が選挙民と直接接触する機会がほとんどありません。また候補者同士が有権者の前で個々の政策をめぐって討論する機会もありません。選挙戦は本来、政策や人柄を有権者が直接知る機会ではないでしょうか。考えるべき課題だと思われます。

・日本の政治は、国が直面する大きな課題を克服する道筋を見いだせないでいます。巨額の財政赤字の様な大きな問題が議論されないまま放置されています。また、ゼロ金利政策が続けられていて、お金を銀行に預けても全く利子が付かず、手数料だけ取られる異常な状況が当たり前になってしまっています。かつてソビエト崩壊寸前、国家の財政破綻のために年金を貰えない窮状に陥っていました。日本も年金体制が崩壊してロシア同様に年金が貰えなくなる恐れが無いとは言えない状況にあります。

・世界は気候変動の問題に直面していますが、化石燃料から再生可能エネルギーへの転換も、日本では本気で議論されていません。もっぱら「いま、自分、お金」のことだけ考える、高度経済成長の時代の価値観が乗り越えられず、引きずっているように思われます。しかし金よりも人とのつながりが大事ではないでしょうか。考えるべきことが沢山あるのに、私たちはほとんど考えないで生きてしまっていないでしょうか。
・選挙はしばしば失望を禁じ得ない結果に終わります。それでもこれまで小さな進歩が積み重ねられて現在があります。希望を捨てる理由はありません。私たちの議論が何かを変えるきっかけになれば幸いだと思います。

＜例会感想、意見、便りなど＞

○＜前号168号を読んで＞

MSさん、フィリピンウォッチャーさん、アダムスミスさんなどのお話に、私もフムフムと思いながら読ませていただきました。そうでしたね、「18歳成人」は当の青年たち自身の要求で成ったものではありませんでしたね。だから、決まっても当人たち自身は大人になったという意識も、自信も、喜びも、そんなになかったのでは‥？　逆に、責任だけ負担に感じていたり‥。というか、20代、30代の人でも、とても「大人」とは思えない人が、特に近頃増えているように思います。自分のことしか考えられない、親になっても幼い子のことが思いやれない、廻りの様子が判断できない、そんな人が増えているように感じていますけど。これも、日本の「学校教育」のなせる業‥と、思ったりしているのですが‥。　（あ）

○＜問題を深掘りしないメディア＞

今回の参議院選挙では、物価高・エネルギー・安全保障などの問題が争点となったが、国民の立場に立って問題の核心に「切り込む」ことが期待されるメディアが、余りにも迫力に欠けたように思える。

例えば物価高で言えば、世界的に原油が高騰する中での日本の円安進行で輸入物価が全般的に上昇したのだが、その背景にある長期の低賃金や、低金利政策に切り込む報道はほとんどなかった。だから、その対策としての消費税減税の野党の主張も、問題の根本とどう関係しているか

オオアオイトトンボ

が国民にはわからないままとなった。

また、ロシアのウクライナ侵攻で俄かに切迫した安全保障問題についても同様で、各党の政策は感情的なものが多く、噛み合わなかったし、メディアに託されたそれを修正する努力もおざなりであった。これでは国民の間で多様な議論ができる選挙にならない。

（フィリピンウオッチャー）

○＜選挙結果についての感想＞

ある程度の年金を受給している高齢者、大企業およびその関連会社に勤めている上級労働者、公務員とそれらの家族は既得権益層であるので変化を嫌いいまのシステムを維持する投票行動をとります。かたや、中小企業労働者、非正規労働者、自営業者はいまのシステムの中で痛めつけられており、まともな思考能力や行動力が失われている気がしますので、これらのことを考えると今回の選挙結果もなるべくしてなっ

たと思いました。

これから自民党がやりたい放題の黄金の3年間が始まると言われますが、それもいまのシステム、構造が持続することが前提での話です。最近、あらゆる分野でその兆候が見られる世界の構造の変化はそのやりたい放題を許さないかもしれません。ひょっとしたら数百年に一度のことが観られるかもしれないと思うとワクワクします。しかし、安全地帯から高みの見物なんていうのは不可能なことなので、構造変化に伴う生活上の混乱、恐怖、不安感の増大は、そのスペクタクルを観るための拝観料金かな、とかバカなことを考える選挙後の自分です。　　（たなか）

○＜自民党にも陰りがある‥＞

今回の参議院選挙の結果は予想していたものの、リベラル野党が伸びなかったのは、やはり残念である。ある哲学者の弁によれば、どうも多くの日本人は寄らば大樹の陰、「負け組ではなく、とにかく勝ち組」に投票したいという心理が働いているようである。自分が「負け組」扱いされている実態を客観的に見るのが辛いのかもしれない。これまでの政権与党がやってきたこと、これからやろうとする企みを見れば、おのずから政権批判につながると思うのであるが、なぜそうならないのか不思議である。しかし、ある

調べでは、自民党が全国比例では昨年の総選挙に比べ、166万票の減。この政権与党に陰りがあることも事実だ。　　（MS）

○＜選挙結果と今後について＞

選挙は、残念ながら、予想通り。安倍さんのことがあってもなくてもだったと思います。辛い世の中が続き、皆が少し保守的になっている中、もっと皆の心に響く内容を届けることが大事だと思います‥日頃から、具体的に。生活の中身のことと。

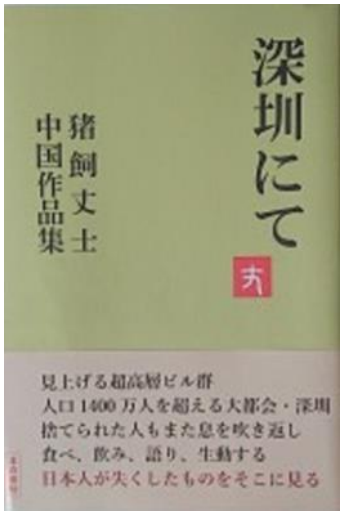
弱小野党の分散でなく、選挙目当てだけの連合でもなく、日頃からもっと真の野党同志がつながりあって、皆の意見や要望をよく聞いて、具体的に、共に活動していってほしいと思います。

“18歳成人“は、”憲法改正“が成ったら、実際に戦場に行かされる‥‥かも？　なんとかしなければいけませんね。　　（A.Taka）

＜この一冊＞　猪飼丈士著　『深圳にて』(本の泉社　2022)

この本には作者の体験的短編小説の4編とエッセイ20本が収録されている。作者の人物像は作品の中に見える。18歳から60歳まで大手電機メーカーの一技術者として勤め、その後半は（42歳ころから）発展途上国でのカラーテレビブラウン管の製造設備の据え付け立ち上げ、現地法人への引き渡しをカナダ、インド、タイ、メキシコ、中国（上海）で行なってきた。

定年後に誘いを受けて　個人契約で深圳の日系企業で技術顧問として働くことになった。他の社員と同じ建物のアパート住まいで9階建の3階に住み、女子寮は4階にあり一部屋6人となっていた。街は作者が下町と書いている商店と露店商人労働者や職人層がいる街と、右手に行くと高級住宅街があり、



ジャスコなどのスーパーがある街がある。作者はかつて上海では大手企業の社員としてホテルに住まい業務に通っていたが、その時と違って今回は、下町で社員アパートに住み通っている。その下町で仕事時間中は、田舎から出てきた少女と言える社員たちと接し、仕事以外の時間は喧騒の中で住民として生活している。エッセイの中に、新聞やテレビでは見られない深圳の片隅の生きた生の生活模様が見ることができる。

（田口文機）

＜素敵なスポット紹介＞　「岐阜関ケ原古戦場記念館」

慶長5年〈1600年〉天下分け目の戦いとして名高い関ケ原の戦いがこの地で繰り広げられました。その歴史のページを体中で感じられる体験型の施設です。

その歴史の舞台として、東西陣営を俯瞰できる底面のスクリーン①「グランドビジョン」で心の準備を、続く②シアターでは、両軍の激突を歴史的シーンに迷い込んだかのような迫力ある映像で観ることができました。（シアターは予約が必要）

2階は常設展示場、5階の展望室からは半径数Kmに及ぶ古戦場のほぼ全体を360°見渡せる絶景です。

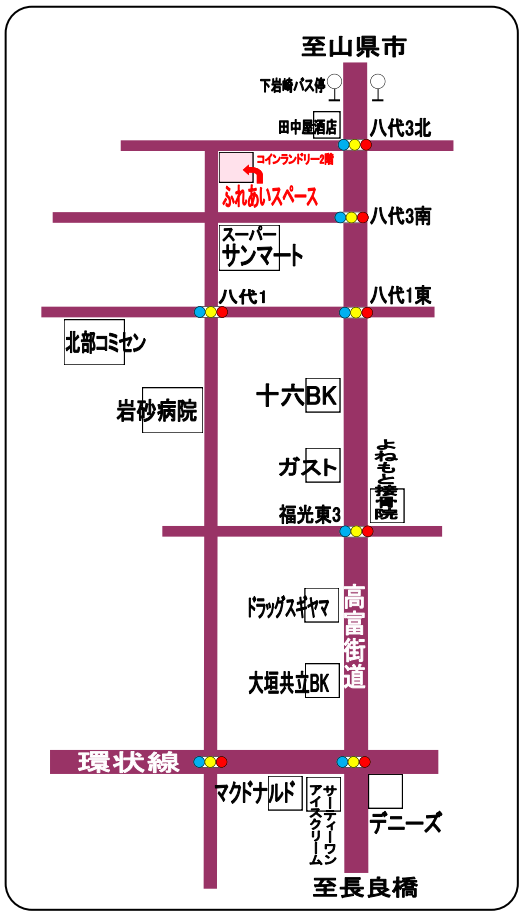
（井口篤郎）

所在地:岐阜県不破郡関ケ原町関ケ原894－55
営業時間:9:30～17:00
休館日:毎週月曜日（祝日の場合は
https//sekigahara.pref.gifu.la.jp

カルガモの親子

例会会場案内

例会への事前申し込みは不要です



哲学カフェ　第28期(2022年後半)例会予定

＊毎月第2木曜日、午後7:00～9:00　ふれあいスペース

⇒ コロナ警報で中止の場合あり、テーマも変更あります。連絡下さい。

第170回例会 8月11日 (木・祭)	「開設14周年記念」講演・討論会　午後1時30分～4時 ＊3年ぶりに記念行事を開催。8月11日(木・山の日)、午後。長良川スポーツプラザ大会議室。 ＊講演は池内了先生(名古屋大学名余教授・宇宙物理学)←4年前に続いて。 ＊テーマは「ウクライナ侵攻から平和を考える－歴史の順行と逆行－」
第171回例会 9月8日(木)	「いじめはなぜ起きるのか、どうしたらなくせるのか？」 ＊子どもの世界でも大人の世界でも様々ないじめが次々と起きている。 ＊なぜいじめは起きるのか。どうしたらいじめはなくせるのか。あらためて考えてみよう。
第172回例会 10月13日(木	テーマ未定　ご意見をお寄せください
第173回例会 11月10日(木)	テーマ未定　ご意見をお寄せください
第174回例会 12月8日(木)	テーマ未定　ご意見をお寄せください

哲学カフェの運営資金の協力 も、よろしくお願いします。
口座記号・口座番号 00810 1 142912
加入者名　哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫
「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中 !!
http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/

右のQRコードをスマホなどで読み取ると、「哲学カフェde ぎふ」のホームページが開きます。ぜひ閲覧願います。友人・知人に拡散いただければ幸いです。

アラカルト　わいわいがやがや

★先日久しぶりに伊勢に行った。天皇家の祖先を祀るあの伊勢神宮にお参りするためではない。戦争末期1945年4月9日、23才でフィリピンにて、戦死状況や遺骨なく、一枚の公報しか届かなかった詩人竹内浩三の墓や祈念碑を訪ねるために。

★彼は入隊直前に、「戦死やあわれ　兵隊の死ぬるや　あわれ　…　国のため大君のため　死んでしまうや　その心や」と書き付けた。この著名な「骨のうたう」の碑は、神宮の南、朝熊山中金剛證寺の浩三の墓のそばにある。

★浩三については、ずいぶん前に「骨のうたう」を知ってから、たいへん関心があった。だが、生誕100年の昨年(2021年)に、市民たちによる記念事業の報道記事の一つがきっかけで、がぜんさらにもっと知りたくなった。

★記念事業の一つに、彼の母校旧県立宇治山田中学校跡地に記念碑が建てられた。それは、「生まれてきたから、死ぬまで生きてやるのだ。ただそれだけだ。」である。これを選んだのは、なんと市内の中学・高校生たちだという記事だった。

★一見ちょっとやけっぱちにも受け取れるこの文言は、「鈍走記」という散文詩の冒頭にある。これは中学時代の級友たちと、すでに戦争が開始された1942年、東京で発行した「伊勢文学」に掲載されたものである。

★そこには検閲を念頭に置いて、「××(戦争)は、×(悪)の豪華版である。」という一節もあり、たんなるあきらめ、ニヒルな境地を示したものではない。戦争を根底から否定しながらも、それを正面から拒否できず、ひたすら生きる決意を示したものだと思われる。

★これを選んだ中学生は「辛くても生きていこうという意志がわかり、背中を押されたから」と、高校生は「読みやすく分かりやすい。シンプルだけれども、伝わるものがある」と記している。

★こう書いた若者たちが、戦中の青年がどのような状況におかれていたのかについてどれだけ知っているかは分からない。だが、時代状況が異なっても、しっかり前向きに生きようとするいまの若者たちの背中を押したい。そして、ふたたび戦争の時代にならないことを強く願う。

(吉田千秋)